

アートに学び、アートに生きる

15年目を迎える現代アートの学校MAD (Making Art Different -アートを变えよう、違った角度で見てみよう) は、5つの「ジェネラル・スタディーズ」と、3つの「アドバンス・スタディーズ」、3つの「ゼミ」および「MADフェンバーガー」から構成されています。アートの動きは、経済や政治と無縁ではありません。日々伝えられる世界の絶え間ない動きはアートに影響を与え、またその逆に、アートは世界がどのようなものになりつつあるのかということを明かします。アートが放つ一筋の光を求めてゆくとき、それはやがて文学や哲学思想、演劇から放たれる光と重なり、社会や時代の構えをほの明るく照らし出すでしょう。それを糧に、怖れず休まず思考を巡らせながら歩みをすすめます。

MADの特徴は？

- 美術史だけではなく、哲学思想や文学など幅広い学問領域をととして、アートを考える独自のプログラム。
- レクチャーやディスカッションだけでなくバスツアーや合宿をととして、アートを学び、経験する。
- アート界の第一線で活動しているMADプログラム・ディレクターとゲスト講師がリード。
- これまで約1,900人以上が受講し、多くの修了生がアート界で活躍中。
- はじめて現代アートに触れる人から専門的に学びたい人まで、熱意があるほど、学びが広がる。

MADプログラム・ディレクター

ロジャー・マクドナルド (AIT)

キュレーター。ケント大学美術理論にて博士号を取得。2006年の第一回「シンガポールビエンナーレ」キュレーター。東京造形大学非常勤講師。美術館兼アート・センター「フェンバーガーハウス (長野)」ディレクター。

小澤慶介 (AIT)

キュレーター。ロンドン大学ゴールドスミスカレッジにて現代美術理論修士課程修了。「十和田奥入瀬芸術祭 SURVIVE この惑星の、時間旅行へ」(2013)キュレーターを経て、十和田市現代美術館チーフ・キュレーターを兼務。

講師一覧

稲垣正浩 (スポーツ史家／21世紀スポーツ文化研究所主幹研究員)

岩崎香 (AIT)

遠藤水城 (インディペンデント・キュレーター)

小野正嗣 (立教大学文学部文学科文芸・思想専修准教授)

兼松芽永 (芸術の人類学)

小山登美夫 (小山登美夫ギャラリー代表)

佐藤信 (日本芸術振興会特別研究員)

澤文也 (インディペンデント・アートディレクター)

沢山遼 (美術批評)

塩見有子 (AIT)

島貴泰介 (美術ライター／編集者)

住友文彦 (アーツ前橋館長)

住吉智恵 (アートプロデューサー／ライター)

芹沢高志 (P3 art and environment 統括ディレクター)

高山明 (Port B)

崔敬華 (東京都現代美術館学芸員)

塚原悠也 (contact Gonzo)

西川美穂子 (東京都現代美術館学芸員)

西谷修 (立教大学文学研究科特任教授)

蛭川敦子 (Take Ninagawaオーナー／ディレクター)

服部浩之 (青森公立大学国際芸術センター青森[ACAC]学芸員)

帆足亜紀 (アート・コーディネーター／横浜トリエンナーレ組織委員会事務局長)

保坂健二郎 (東京国立近代美術館主任研究員)

堀内奈穂子 (AIT)

アンドリュース・マークル (フリーランスライター／編集者)

光岡寿郎 (東京経済大学専任講師)

宮永愛子 (美術家)

森弘治 (美術家／ARTISTS' GUILD共同代表)

吉本光宏 (ニッセイ基礎研究所研究理事)

お問い合わせ先
NPO法人アーツイニシアティヴトウキョウ [AIT／エイト]
〒150-0033 東京都渋谷区猿楽町30-8 ツインビル代官山 B-403
Tel: 03-5489-7277 Fax: 03-3780-0266
E-Mail: mad@a-i-t.net http://www.a-i-t.net

NPO法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT／エイト]とは
現代アートを考えるさまざまな「場」をつくるため、2001年に設立したNPO。アーティストやキュレーター、美術館やギャラリーのほか、企業、財団、行政と連携しながら、現代アートの複雑さや多様さ、驚きや楽しみを伝えています。



受講料

ジェネラル・スタディーズ

1. コース (各期)

コース名	レクチャー数	受講料 (税別)	定員
キュレーション	指定10コマ＋選択2コマ	¥51,000 (交流会費込)	30名
アート・ワールド	指定10コマ＋選択2コマ (バスツアー1回含む)	¥55,000 (交流会費・バスツアー代込)	20名
アーティスト	指定8コマ＋選択2コマ	¥35,000 (交流会費込・作品プレゼンテーション講評有)	12名
スーピー・マガジン NEW	指定6コマ＋選択2コマ	¥35,000 (交流会費・スूप代込)	12名
M&Mサロン NEW *本コースのみ通年開講 1コマ＝3時間	指定4コマ＋選択2コマ	¥33,000 (交流会費込)	12名

- 一期のみ、あるいは通年で受講することができます。
- 指定のコマに加え、他のコースから2コマを選択して受講することができます。
- AITルームでのレクチャーは、クーポン生も受講するため、各回の定員は40名です。但し、「スーピー・マガジン」と「M&Mサロン」はディスカッションを中心とするコースのため、定員は20名となります。
- 授業を欠席した場合、コース生は受講コースに限りビデオ視聴が可能です (予約制／日時の指定あり)。

3. アドバンス・スタディーズ (各テーマ)

レクチャー数: 6回	受講料: ¥29,000 (交流会費込／税別)	定員: 25名
------------	-------------------------	---------

- 1テーマから受講することができます。

4. ゼミ (各期)

ゼミ名	ゼミ数	受講料 (税別)	定員
ディスコースのラボ	6回 (小冊子制作費込)	¥48,000	12名
地球のアーティスト、惑星のアート NEW *前期のみ	5回 (プロジェクト制作費込)	¥42,000	12名
何のためのアート? NEW *後期のみ	5回 (プロジェクト制作費込)	¥42,000	12名

- 「ディスコースのラボ」は一期のみ、あるいは通年で受講することができます。

お申込方法

お申込みは、2015年1月22日から受け付けます。HPにて、MAD2015の概要や受講方法をご確認の上、オンライン申込フォームに必要事項を記入し、送信してください。FAXにてお申込みをご希望の場合は、お問い合わせください。原則として、受講料のお振込み後の返金は受け付けておりません。予めご了承ください。

お申込締切

ジェネラル・スタディーズ「コース」とゼミ: 2015年3月24日 (4月開講分)、8月17日 (9月開講分)

アドバンス・スタディーズ: テーマ①4月13日、テーマ②6月29日、テーマ③9月28日

ジェネラル・スタディーズ「クーポン」: 2015年12月まで随時

MADフェンバーガー: 各回開催日の2週間前まで。詳しくはHPをご覧ください。

- 消費税率は8%となります (2014年12月現在)。
- 展覧会の入場料は、受講料に含まれません。
- 掲載情報は、2014年12月現在のものです。プログラムの内容やスケジュール、講師は変更される場合がありますが、事前にHP上で告知されます。

無料体験レクチャーとお得な割引

旬なテーマを取り上げる特別レクチャーのほか、プログラムや受講方法についての説明を行います。

開催日時は、1月27日、2月16日、3月17日、いずれも19:00-20:30です。4月以降は、随時「相談会」を開催します。詳細はHPをご覧ください。

早割5

2015年3月2日までにお申込みいただいた方は、受講料が5%割引となります。

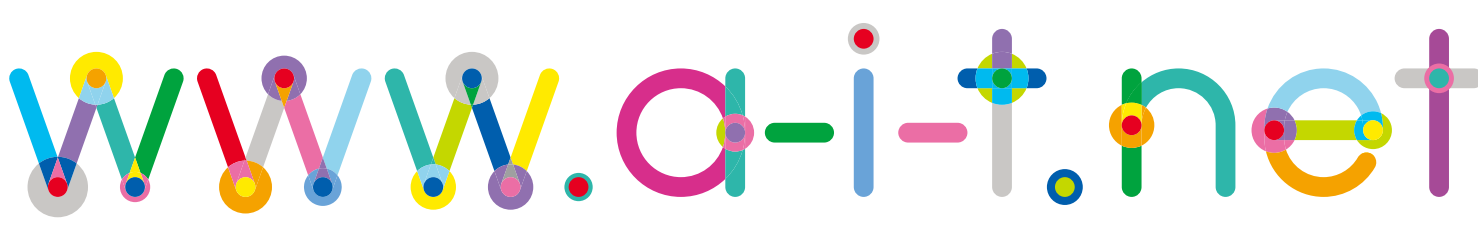
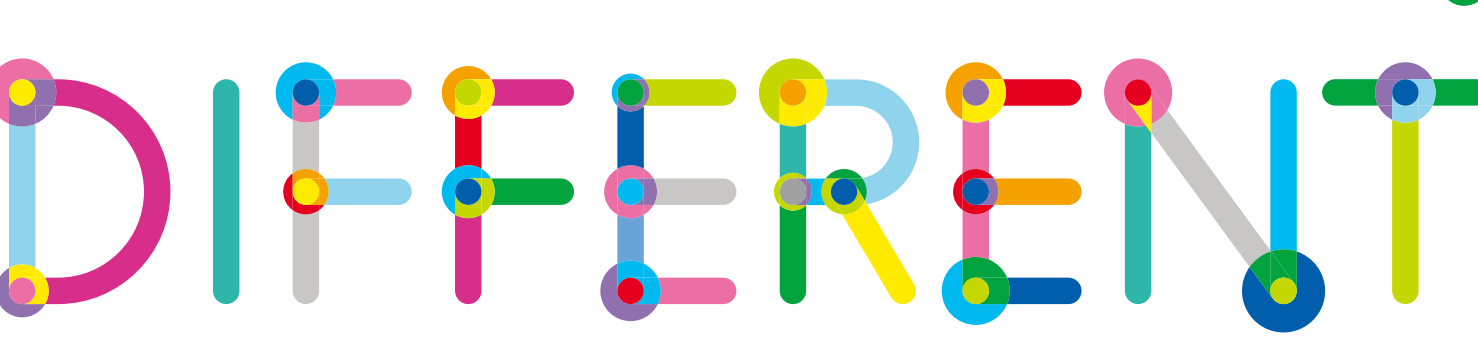
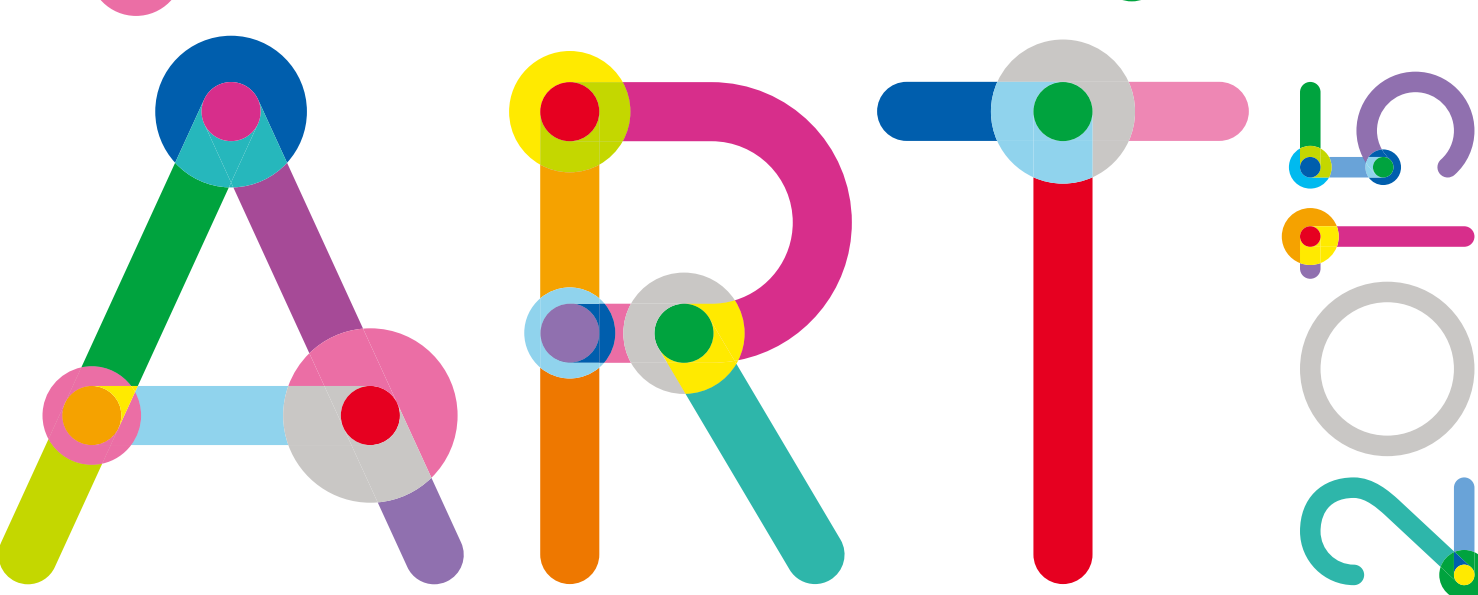
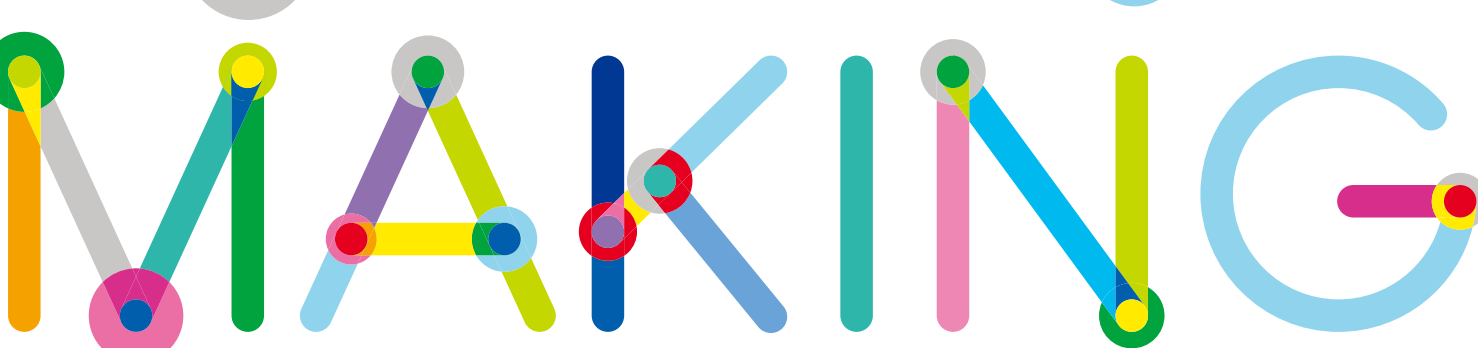
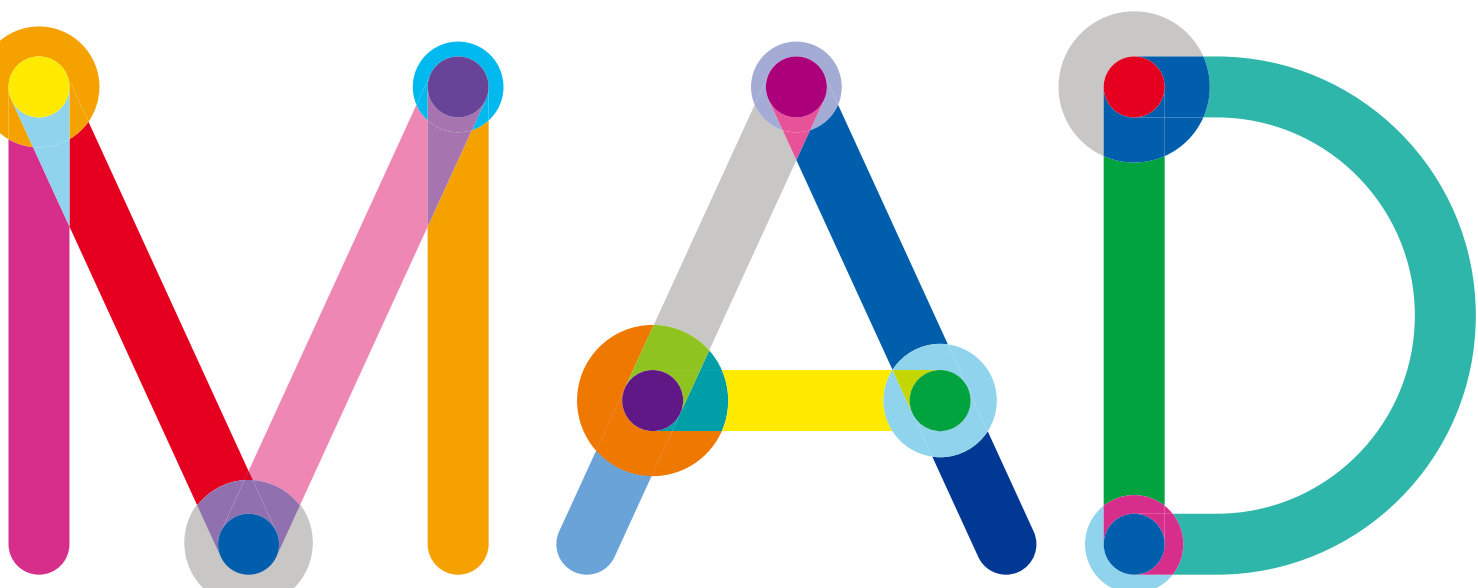
継続割引10／同時割引10

2015年3月2日までにお申込みいただいたMAD修了生の方、また、新規で2つ以上のジェネラル・スタディーズ「コース／クーポン」、

アドバンス・スタディーズ、ゼミを一度にお申込みいただいた方は、受講料が10%割引となります。3月3日以降の割引や特典についてはHPをご覧ください。

※「ポップリスト」「ミニマリスト」、「MADフェンバーガー」は割引対象外です。

SCHOOL OF CONTEMPORARY ART



「アートって、何?」からはじめる ジェネラル・スタディーズ

現代に至るアートの200年を、美術史やキュレーションの基礎知識、アート界の仕組みや現場の動き、アーティストになるための思考法、世界のアート事情まで、さまざまな角度からアプローチする5つのコースです。ジェネラル・スタディーズ内のレクチャーから自由に横断、選択できる「クーポン」もおすすめです。（追加購入可）コースで交流会などの特典を楽しみながら仲間と学ぶのもよし、気になるレクチャーをクーポンで受けてもよし。知識の量ではなく、熱意と意欲、考える力によってアートの楽しみ方は広がってゆきます。

この200年の歩みから、今のアートを考える

キュレーション

「なぜ、アートが今のようになったのか?」この疑問に対し、アートが社会の変容とともにどのように歩んできたのかを眺めます。それは、アートのみならずそれを社会に発信するメディアであった展覧会も同時に考えてゆくことになるでしょう。現在に至るアートを4つのテーマ、「明るい未来の神話と臨界」「アートが政治になるとき」「今どきのアート、今どきのキュレーティング」「遊びとユーモアの実験場」によって描き出します。すると、アートを巡る歴史や議論が一つの大きな運動体としてその輪郭を浮かび上がらせることでしょう。現代アートの基礎知識を学びたい方、アートや展覧会の可能性を考えてみたい方におすすめです。すべての回は、ロジャー・マクドナルドと小澤慶介によって行われるほか、ゲスト講師によるレクチャーもあります。●コース受講のポイント:受講生対象の交流会あり。●レクチャーは、原則として平日の19時—21時に開講。

前期（2015年4月～8月）
明るい未来の神話と臨界
○現代アート—ゲームの規則
○絵画が自由を獲得するとき
○美術館が先か、アートが先か?
○都市・産業・彫刻の相関関係
○自由を求めて—アヴァンギャルドが切り拓く世界

アートが政治になるとき
○アーティストかベテン師か?—マルセル・デュシャン考
○眼から頭へ—コンセプチュアルアートとは?
○国家と芸術のビミウな関係—二つの大戦とアート
○写真はアートを政治化する?
○スペクタクルと映像文化の20世紀

後期（2015年9月～12月）
今どきのアート、今どきのキュレーティング
○生産される記憶とキュレーションの関係
○語りつくせぬアジアとキュレーティングの行方
　　崔敬華（チェ・キョンファ）
○新自由主義と国際展の時代
○アイデンティティと他者の力学を考える
○3.11後の世界とキュレーティングの実践

遊びとユーモアの実験場
○ハラルド・ゼーマンと20世紀のキュレーション
○アート・文学・演劇—領域を横断するキュレーション
○「参加すること」の政治学—関係性の美学再考
○小さな神話とキュレーション—個人美術館のススメ
○状況から作品を一進化するアーティスト像を探る

アートの現場に近づく
アート・ワールド
「アート界について知りたい」「自分とアートとの関わり方を探りたい」と考えている人、集まれ! キャラリーや美術館のほかにもアートの仕事はたくさんあります。そのなかには、まだ日本において実現していないもの。今のアート界を知り、そこで活動をする人を知り、そして自分は何がしたいのかあるいは何ができるのかを見極めます。多彩なゲスト講師の話に耳を傾けアートとは何かを深めつつ、社会とのつながり方をともに考えてゆきましょう。ゆくゆくは何らかの形でアートに関わりたいと考えている方におすすめです。
●コース受講のポイント:受講生対象の交流会あり。各期1回、東京近郊アートスポットへのバスツアーあり。＊過去の訪問先:フレマチスの丘（静岡県）、アーツ前橋（群馬県）など。
●レクチャーは、原則として平日の19時—21時に開講。

前期（2015年4月～7月）
アート界を知る
○現代アートを考える3つの視点
　堀見有子／堀内奈穂子
○アーティストとは?—思考と場が形になるとき　宮永愛子
○アーティストって誰?—思考と場と身体　塚原悠也
○コマンチャル・ギャラリーの終わりにき冒険　小山登美夫
○新しい美術館の役割
　—啓蒙から実験・共生の場へ　住友文彦
○キュレーターに求められる3つの力　服部浩之
○バスツアー（訪問先はHP参照）
○芸術祭を動かす・支える、人と仕組み　帆足亜紀
○2020年代へ—アートとアート界のスキミング　小澤慶介
○ワークショップ—わたしにできるアートの仕事
　堀見有子／堀内奈穂子

後期（2015年9月～12月）
アートとアート界への関わりかた
○アートのはじめかた、AIT のはじめかた
　堀見有子／堀内奈穂子
○ワークショップ—アイデアの種をどう探す?
　堀見有子／堀内奈穂子
○アート界の外へ—福祉、医療、教育の現場から
　堀見有子／堀内奈穂子
○バスツアー（訪問先はHP参照）
○今どきの文化政策　吉本光宏
○アート界の入口まで／からの歩き方
　西川美穂子／島貫泰介
○国際的なアートワールドのフレームワークと、日本のギャラリストにできること（仮）　蛭川敦子
○前人未到のアートを求めて—合わせ技と実験　遠藤水城
○アートと人の結びかた—書いて、話して、場をつくる　住吉智恵
○ワークショップ—アイデアが仕事になるとき
　堀見有子／堀内奈穂子

「アーティスト」になるための思考力と構想力をつける
アーティスト
プロのアーティストになるための基礎的な思考訓練をするコースです。「美術系の学校は出たけれど、制作の方向性を見つめ直したい」「思考と表現と場の関係について自分なりのアプローチを探りたい」など、表現活動における次のステップに向けて課題を抱えている表現者におすすめです。表現を作品にするプロセスや展示空間に展開するときのポイント、また時代を読み込んで形にする方法などについてレクチャーやワークショップなどをとおしてともに考えます。すべての回は、森弘治氏（美術家／ARTISTS' GUILD共同代表）と小澤慶介によって行われます。
●コース受講のポイント:受講生対象の交流会あり。作品プレゼンテーションの講評あり。
●レクチャーは、原則として土曜日の午前中に開講。

前期（2015年4月～8月）
表現から「作品」へ—アートを空間から考える
○アートの条件をみんなで考える
○プレゼンテーション
○作品と展示空間を読み解く力
○アートの種を見つけて形にする方法
○スタジオから展示空間へ
○作品を展覧会でよく見せる方法
○素材と表現とコンセプトの関係式を考える
○アートをうまく使う方法

後期（2015年9月～12月）
今と「アート」を結び—アートの同時代性を考える
○同時代性ってなに?—マルセル・デュシャンから考える
○リアルってなんだ?—リアリティの見つけ方とその読解力
○リアリティに厚みをもたせる調査とは?
○リアリティへの距離感と表現媒体の選択
○作品の物語化と語り方
○表現における個性の獲得のしかた
○プレゼンテーション
○アーティストとしての戦略を立てる

アートのいちばん熱いところを、より気軽に
スーピー・マガジン NEW
広く海外のアート事情を知りたいという人に向けて開講する、入門的なコースです。現代アートについての記事や論考は、世界規模で見るとほとんど英語で書かれています。その多くが日本語に訳されていないなか、本コースでは「Frieze」「ARTFORUM」といった美術雑誌で話題の記事やロバート・ビューズやディヴ・ヒッキーなど気鋭の批評家による議論をわかりやすく紹介します。今のアートを語る上では欠かすことのできない専門用語に触れ、新しい友だちを作り、より一歩現代アートの魅力に近づきます。すべての回は、ロジャー・マクドナルドと堀内奈穂子によって行われます。
●コース受講のポイント:受講生対象の交流会あり。アートについて語りながらスタッフ特製手づくりスープを楽しむ。
●レクチャーは、原則として平日の19時—21時に開講。

前期（2015年4月～7月）
後期（2015年9月～12月）
○各期6コマ開講

Quarterly art discussion held in English.
英語で学ぶ、戦後日本のアートの歩み

M & M Salon NEW

This course is designed for those who would like to access post-war Japanese art history and its current tendencies, in English. Roger McDonald and art writer Andrew Maerkle will host and navigate issues around art history in Japan, its social and cultural structures for art as well as interesting news and exhibition items from around the world.

●Term: May-November 2015
●Salons will be held in English on Friday nights (four times a year) in an informal setting, from 7-10pm.
●Capacity: 12
●Course fee: 33,000JPY (tax excl.)
The tuition includes:
- Fee for casual socializing sessions with snacks at AIT room after the salon,
- 4 M&M Salon sessions + 2 sessions from other general studies course
●For more information, please see AIT's website.

アートをより広く、より深く アドバンス・スタディーズ

アートをアートだけではなく、関連する学問領域や社会の仕組み、時代思潮などをとおして考え、その可能性を探るテーマ別レクチャー・シリーズです。2015年度は、戦後の社会形成とともに変容する身体、近年全国各地で行われるようになった芸術祭の不/可能性、近代という時代の構えとアートの関係性といった三つの大きなテーマを設け、レクチャーとディスカッションで深めてゆきます。社会的な制約や時代の要請を受けながらも、潜勢力（ものごとを変える力）があるアート。そうしたアートの成立条件に目を配りながら、目の前に広がる複雑な世界とアートの結び目を少しずつ、集中的に読み解きます。兼松芽永氏（芸術の人類学）と小澤慶介が各回のディスカッションをナビゲートします。

●受講生対象の交流会あり。
●各テーマにつき、3つのサブテーマ、合計6回のレクチャーによって構成されます。
●レクチャーは、原則として土曜日の午後に行われます。

テーマ①（2015年4月～6月）

二つのオリンピックの間で変容するカラダ

1964年の東京オリンピックから2020年までの50余年について、カラダをキーワードに考えます。戦後の高度経済成長を経てグローバル化の流れのなかで、私たちのカラダはどう変わってきているのでしょうか。群衆がまちに繰り出して手と手をつなぎ肩を組んでデモをした60年代から、「引きこもり」が社会問題になる現代。産業化とともに管理されてゆくのもカラダであれば、そこから抜け出そうとするカラダも。その間にある力関係を描き出す試みです。

○感覚・感性を取り戻すことと演劇の新たな地平　高山明
○オリンピックの変容からカラダを考える　稲垣正浩
○戦後日本の皮膚の思想—60年安保闘争から考えはじめる　佐藤信

テーマ②（2015年7月～8月）
地域とはどこか?芸術祭とは何か?

近年、全国各地で開催されている芸術祭から、「地域」とは何かを文化人類学や文学などの観点から眺めます。芸術祭は「地域の再生／創造」という言葉で語られますが、「地域」はもともと豊かな生活文化が育まれ、創造的でした。しかしそれも、「中央政府」との関係が結ばれたときに大きく変わらざるを得ませんでした。今、もう一度「地域」の力を引き出すような芸術祭を作るとしたらどのようなものになるでしょうか。あるいは、アートに携わる人々はどうのようにそれに向き合うでしょうか。既存の思考の枠組みに囚われずに、広くその可能性について考えます。

○野生の「アート」再考—暮らしをかたちづくる表現　兼松芽永
○グローバル化の波打ち際で「地方」が文学をするとき　小野正嗣
○芸術祭が果たさぬ夢　芹沢高志

テーマ③（2015年10月～12月）

アートの存在論へ—3.11以後から考える

アートを巨視的、相対的に見直す試みです。一般的に、わたしたちが見知っているアートは、西洋近代とそれが世界化した200年によって形づくられたものといってもいいでしょう。しかし、その外側にもアートのなるものがあるとしたら、それはどのようなものになるのでしょうか。西洋近代とはどのような時代の構えなのかを踏まえながら、その外から吹いてくる風に、もう一つのアートを感じとる実験です。

○アートの汲みつくせぬ可能性を求めて　小澤慶介
○破局に向き合い、創造を思考する　西谷修
○近代代理性の影とアール・ブリュット　保坂健二朗

●Term: May-November 2015
●Salons will be held in English on Friday nights (four times a year) in an informal setting, from 7-10pm.
●Capacity: 12
●Course fee: 33,000JPY (tax excl.)
The tuition includes:
- Fee for casual socializing sessions with snacks at AIT room after the salon,
- 4 M&M Salon sessions + 2 sessions from other general studies course
●For more information, please see AIT's website.

現代アートを学ぶ楽しさをすべての人に FREE MAD!

1900年から美術史約100年分をオンラインで学べる無料レクチャーを公開中。いつでもどこでもアクセス可能!忙しい社会人や、身近に現代アートを学ぶ場がないという方、留学を考えている方におすすめ。

www.a-i-t.net/ja/freemad/

アートの山に、登り、世界を眺める ゼミ

踏破するのが難しそうに見えるアートの山。しかしながら、それを少しずつ登ってゆくと、やがてそれを支えている社会の基盤、時代の構え、次第に複雑で多様な世界の成り立ちが視界に入ってくることでしょう。疑い、迷いながらも歩を進め、アートが開くこの世界の「わからなさ」に向き合ってみましょう。すると、気がつけば、生きるための思考や芸技、術策、糧などさまざまな表情をしたアートがその姿を現すことでしょう。少人数制のゼミで、ディスカッションやワークショップをとおし、各テーマを深めてゆきます。ゼミは、原則として平日の19時—21時に行われます。

ディスコースのラボ 地球のアーティスト、惑星のアート NEW

ディスコースとは、世界のありようを捉える言葉という意味。アートの歴史がどのように紡がれているのか、戦後の運動や展覧会、そこで繰り広げられた論争を参照にしながら、仲間とともにディスカッションをし、アートを自分の言葉で伝える力を身につけます。ARTIT インターナショナル版副編集長を務めるほか、海外のアートマガジン「frieze」などにも寄稿している編集者・ライターのアンドリュー・マークル氏が日本語でリードし、テキスト執筆を指導します。全5回のゼミのほか、各期1回、本ゼミのテーマに関連する施設を訪問します。●小冊子を作ります。●参考書籍の貸出しあり。

前期（2015年5月～7月）
ディスコースの歴史を読み解く
○アートとは何か?—ディスコースにつきまとう疑問
○体験的なディスコース—リソースとしての美術館を経験する（遠足）
○批判的な読解、それが読むということ
○時代を探る—マニフェスト（宣言）の考古学
○展覧会との対話=テキストを書いてみる
○社会とアートを繋ぐ交流の空間

●すべての回は沢山遼氏（美術批評）がナビゲートし、ディスカッションは沢山遼氏と小澤慶介がリードします。
●文献資料は、事前に配布されます。なお、一部英語の文献がありますが、日本語訳を適宜付します。
●ミニプロジェクトを企画します。

後期（2015年9月～11月）
ディスコースの未来を考える
○歴史と現在の循環に自分の立場を考えること
○アートの視点から文化を見ること
○歴史と同時代性からアートにアプローチ（遠足）
○国際的なフィールドから日本のアートを語ること
○美術の社会性=テキストを書いてみる
○研究・実験・成果—来るべきディスコースへ

MADフェンバーガー2015

ロジャー・マクドナルドが、2013年に開館した長野県佐久市にある美術館兼アート・センター「フェンバーガーハウス」をMADサテライトキャンパスとし、3つのプログラムを開催します。浅間山を臨む静かな環境で学ぶほか、佐久市の自然や食事、温泉なども併せて楽しむことができます。全プログラム、一泊二日（土日）の日程で開催します。
＊MAD受講生・修了生対象　主催:フェンバーガーハウス、NPO法人AIT

2015年5月30日-31日、9月26日-27日
キュレーションのエコロジー NEW
私たちが慣れ親しんでいるものとは大きくかけ離れた「アート・ミュージアム」のあり方を、生活空間とアート作品の関係性や、時間をかけた深い鑑賞体験などから探ります。また、実際にフェンバーガーハウスのアートコレクションを用いて、実験的なギャラリーイベント企画をワークショップ形式で行います。その他、美味しい手料理やドリンク、ロジャー・マクドナルドがセレクトした音楽をゆったりと満喫できるのも醍醐味です。

2015年6月27日-28日、10月17日-18日
ホール・アース・佐久ツアー NEW
本プログラムでは、インディペンデント・アートディレクターの澤文也氏とロジャー・マクドナルドによるナビゲートのもと、フェンバーガーハウスのコレクション鑑賞のほか、オルタナティブなアートセンターやコミュニティ・カフェ、農家などを巡り、手作業の意味やそれが生み出す価値に触れます。「健康であること」「コミュニティの中で暮らすこと」をキーワードに、「コミュニケーションに囲まれながら、頭と身体をゆつくりと解放していきます。ロジャー・マクドナルドと、ヨガの指導資格をもつAITスタッフの岩崎香がナビゲートします。

何のためのアート?—アートの社会的役割について考える NEW

21世紀に入ってこの15年、私たちの身の回りはアートで溢れかえっています。毎年のように新たな芸術祭が開催され、にわかには把握できないほどのアート・プロジェクトが同時進行するようになりました。しかし、それは何のために、また誰のためにあるのでしょうか?もともと近代以降のアートは、「芸術のための芸術」が表すように、アート自身が新しいアートを生み出す自律的な運動だと考えられてきました。ところが、現在の日本では、美術館やアート・プロジェクトに「地域おこし」や「都市の再開発」といった社会的な役割が課されているようです。本講座では、このアートが「果たすべき／べきではない」役割の変容を、社会学的な観点から解きほぐしてゆく思考実験です。●すべての回は、光岡寿郎氏（東京経済大学専任講師）がナビゲートし、ディスカッションは光岡寿郎氏と小澤慶介がリードします。●文献資料は、事前に配布されます。なお、一部英語の文献がありますが、日本語訳を適宜付します。●ミニプロジェクトを企画します。

後期のみ開講（2015年9月～11月）
○さまざまな思想が交錯する「地域」—アートと社会の境界
○「グローバル・ローカル」という双方の臨界点—グッゲンハイム美術館
○アーティストを目指すことの意味—グローバルゼーションとアート留学
○アートの批評に観衆は不要か?—国際展というコミュニティ
○集合的行為としての作品、共同体としてのアート

